

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 100

事務事業名	生ごみ減量化推進事業
-------	------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	市民環境部		
課名	環境保全課		
課長名	原 和彦	内線	178
担当者名	出口 正幸	内線	143

基本目標		機能的で環境と調和したまち
政策	050403	環境にやさしいまちづくり
施策		ごみの減量化と適正処理の推進
関連施策		

会計	一般会計	
款	4	衛生費
項	1	保健衛生費
目	4	環境衛生費
事業コード	050200	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか 市民		
意図	対象をどのような状態にしたいか 生ごみの発生量を抑制し、循環型社会の構築を図るとともに、地球温暖化防止に必要なCO2削減に向けてリサイクルを促進する。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か 生ごみ減量化及び再資源化の促進を図るため、各地区・町内会・職場・学校やグループごとに生ごみリサイクル講座を実施しており、電動生ごみ処理機器の購入に対しても一部補助金を交付し、堆肥化容器については、無償で貸与する。		
事業期間	年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	循環型社会形成推進基本法第5条、大村市生ごみ処理機器補助金交付要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 生ごみ処理機器補助交付数	計画値	25	20	20	20	
		実績値	14	10	8		
	前年度の実績数を考慮して計画数を設定	達成度	%	56.0%	50.0%	40.0%	
活動指標	② 生ごみ(堆肥化)容器交付数	計画値	130	130	130	130	
		実績値	168	74	63		
	達成度	%	129.2%	56.9%	48.5%		
成果指標	① 生ごみ減量化量(自家処理量)	計画値	1,022	1,042	1,043	1,054	H27実績 0.1552363×6,791基 H28計画 0.1552363×6,791基
		実績値	1,030	1,043	1,054		
	世帯年間生ごみ排出量 0.1552363t×堆肥化容器等設置延べ基数	達成度	%	100.8%	100.1%	101.1%	
	② 講習会参加者数	計画値	人	1,300	1,400	1,500	
実績値		1,170	1,099	622			
② 依頼により講座を開催	達成度	%	90.0%	78.5%	41.5%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	669	649	333	765	797	797	797	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	669	649	333	765	797	797	797	
② 人件費(千円)	2,542	2,472	2,344	1,854	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.25	0.25	0.25	0.20	生ごみリサイクル講座・生ごみ処理機器購入費補助金	生ごみリサイクル講座・生ごみ処理機器購入費補助金	生ごみリサイクル講座・生ごみ処理機器購入費補助金	
時間外勤務(時間)	0	14	13	15				
嘱託等人数(人)	0.30	0.30	0.30	0.20				
フルコスト(①+②千円)	3,211	3,121	2,677	2,619				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	おむらんちゃん生ごみリサイクル食育健康フェアを実施し、広く市民に対し生ごみ減量化の意識を高めることができた。県保健環境連合会主催の研修会に参加し、先進自治体の取り組みの調査研究を行った。
事業が抱える問題・課題等	町内会等各種団体での講習会回数が少ないので、講習会等の呼びかけの対策が必要。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	生ごみリサイクル講習会を開催し、生ごみ処理機器の購入促進、堆肥化(コンポスト等)容器の普及を図り、家庭から排出される生ごみの減量化及び再資源化の促進を行い、ごみ減量化・リサイクルへの意識向上を図ることができる。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	生ごみの減量化、再資源化の促進を図るため、生ごみ処理機器の購入及び堆肥化(コンポスト等)容器の利用支援対策として、市が率先してやらなければならない。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	生ごみリサイクル講習会や電動生ごみ処理機器の補助及び堆肥化(コンポスト等)容器の貸与を実施しているが、交付数は減少傾向にある。ただし、生ごみ減量には有効である。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	家庭から排出される生ごみの減量化・再資源化を図ることができ、市民自らの循環型社会への意識の高揚を図ることができる。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	平成19年度からマジックボックス(小型堆肥化容器)の無償貸与を開始し、生ごみ減量化の効果がでてきており、現段階では削減の余地はない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	大村市生ごみ処理機器購入費交付要綱により購入金額の30%、9千円～2万7千円の範囲が補助金となっており、見直し余地はない。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	広く市民に生ごみ減量化の意識を向上させるためのイベント等への参加の呼びかけを積極的に行う。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。